

チン開発の促進を促した。その結果、経済的に余裕のある国々は数 billion ユーロを出費したが、それは結局不必要な出費であったと、どの国も後悔している。ヨーロッパ各国政府は今になつて、余剰ワクチンの転売しようと必死である。1月末に始まる欧州議会において、製薬会社が WHO に圧力をかけて各国に不必要的歳出をさせたのか否かについて調査を開始する。具体的には欧州議会が製薬会社の内部調査に入るであろうと報道された。ジュネーブで WHO スポークスマンは質問には答える覚悟であると発表した。しかし、スポークスマンは新型登場宣言が妥当であったか否かについての検証は独立した複数の専門家によってなされ、その結果は公表されると発言した。しかし、パンデミック終焉宣言があつて初めて検証が始まる。宣言が出るのは数ヶ月先であろう<sup>101-103)</sup>。

今欲しいのは「鶴の一聲」「流行は終わったもはやワクチンは必要ない」

## 17. 大手製薬業界の反応

2010年1月25日からの週に欧州議会 Parliamentary Assembly of the Council of Europe (PACE) は「H1N1ワクチンをめぐる業界と WHO の癒着とワクチンによる大量虐殺」に関しての事情聴取を秘密裏に行う。大手製薬業界・マスマディア連合 (Pharma Media) は報道管制を行つて、事情聴取の内容の機密を保ち、外部に報道されることを抑止するものと思われる<sup>104-105)</sup>。

## 18. WHO の反論

以下2010年1月22日のWHO声明<sup>106)</sup>を要約する。

利益相反と虚偽のパンデミック宣言に対する WHO 声明 2010年1月22日

WHO は利益相反については、厳しい姿勢をとっている。パンデミックインフルエンザ宣言の決定に関しては、独立を保っている。WHO が製薬会社に利益をもたらすために虚偽のパンデミック宣言を発したと糾弾されているが、これは科学的に誤りであり、歴史的に正しくない。

(1) このインフルエンザウイルスは遺伝的にも抗原性についても巷に流布している他のウイルスとは大きく異なる、(2) メキシコ、米国、カナダからの疫学的情報は人→人感染があることを示し

ている、(3) 特にメキシコからの臨床的な情報は、このウイルスは重症の疾患や死亡をもたらすことを示している、(4) 稀ではあるが、急速に進行し、しばしば死亡をもたらすウイルス性肺炎が発症する。これは季節性インフルエンザでは見られない病像である、(5) 地理的な拡大が異常に早い。

世界は本当のパンデミックの中にいる。偽りのパンデミックであるという表現は誤りであり、そのような表現をすることは不可能である。

WHO と製薬会社が癒着して虚偽のパンデミック宣言を出したのではないかという疑惑に對して、2010年1月22日 Dr. Keiji Fukuda, assistant director general of the WHO (福田 敬二氏、日本生まれ、米国の医師、CDC インフルエンザ局疫学部長を経て、現職) は「WHO は世界に提供する情報について常にバランスを保ち、誠実であった。WHO が世界に発信するパンデミックアラートについては、過不足はない。」と反論<sup>107)</sup>。2010年1月26日 Dr. Keiji Fukuda は WHO を代表してパンデミック (H1N1) 2009 の欧州会議 (Concil of Europe) の事情聴取に對して声明を発表した<sup>108)</sup>。以下はその抄録<sup>109)</sup>である。

偽りのパンデミック宣言疑惑に対する WHO の意見表明 2010年1月26日

H1N1パンデミックは季節性インフルエンザとは多くの点で異なる。通常のインフルエンザのシーズンを外れて大流行が起こった。ウイルスは若年者に衝撃的かつ異常に重症な疾病や死をもたらした。ウイルス性肺炎で多数が死亡した。このような疾病構造は季節性インフルエンザでは見られない。パンデミックは終焉しておらず、現在までに 14,000 の死亡が報告された。季節性インフルエンザによる死亡と比較するのは、リンゴとオレンジを比較するようなものである。季節性インフルエンザによる死亡は統計学的モデルによる。パンデミックインフルエンザによる死亡は 1 例 1 例が検査によって確認されており、実際の死亡数をはるかに下回っていることは間違いない。統計学的モデルを使ってより現実的な死亡数の推計ができるのは、パンデミック終焉後になるので、通常は 1 ないし 2 年を要する。

豚もおだてりや空を飛ぶ—WHO の主張